



やる気はどうして出てくるのだろう

校長 武市 俊彦

ーできるかな・・・? できそうだな・・・ やってみよう!ー

親なら誰でも、教師なら誰でも 「子どものやる気を育てたい」と思うはずです。

どうすれば、子どものやる気を育てたり、引き出したりすることができるのでしょうか。

自分が小さい時、電車のつり革に触れるかなと

ジャンプしたことはありませんか?

雨上がりで、水たまりを見つけた時、跳べるかなと

挑戦したことはありませんか? そして、跳べたら、

もう少し大きな水たまりを探して、跳べるかなと新たに挑戦しませんでしたか?



私は、小さな頃、長靴で水たまりをビシャビシャと歩き、水たまりを跳んでいました。

そして、最後には、選んだ水たまりを跳べずに、水浸しになりました。今の自分が少し頑張ってみたらできそうなことには、チャレンジしたくなります。そして、もう少し、もう少しと目標をあげてみたくなります。失敗してビシャビシャになっても楽しかったことを覚えています。

ペンシルバニア大学の心理学者アンジェラ・ダックワース准教授は研究で、「Guts=勇気」「Resilience=復元力」「Initiative=自発性」「Tenacity=執念」の「GRIT」が成功のかぎだと結論づけました。もし、「この水たまりを跳びなさい」「次はあの水たまりにきなさい」と

言われていたら、あんなに夢中にはならなかったはず。なぜ何度も挑戦したのだろうか?

きっと、「できるかな?」が心をワクワクさせたのだと思います。親が、教師が子どもに楽しいと思わせるには、どうしたらよいのでしょうか。確かな答えは難しいですが、挑戦しようとしたこと、挑戦している過程を認め褒めることがその一つだと思います。『できて当たり前』とっていると「お母さん、漢字テストで80点だったよ」と喜んで子どもが伝えても、「100点の人もいたんじゃないの?」「もう少し頑張ったら100点だったのにね」と言ってしまうかもしれません。そうではなくて「何度も練習していたものね。頑張ってたね。次100点狙ってみる?」という、子どものやる気は持続したり高まるかもしれません。

諦めてしまう原因の一つに、「見た瞬間わからない気がする」ということがあるように思います。

「自分には無理!」と諦めてしまうと挑戦する力は湧いてきません。私が担任で算数を教えていた頃、『未習のことは既習のことから解決できる』ということ大切にしていました。「あっ、この問題見た気がする」「この文章題、小数が整数だったら、解けそうだな」ということが大切だと思います。そして、子どもに「自分でやりなさい」と任せきりにしないで一緒に考えてみたり、「本当ね、整数だったらできるのにね。もし、数字が○と■(整数)だったらどんな式になるの?」と寄り添ってみたら、「あっ、できるかも...」と自分でやり始めるかもしれません。傍らの人のおかげだけで、本人は自分で解いたと思うでしょう。自分でできた自信が次のやる気や粘り強さにつながる気がします。

子育てって、何が正解かわからない部分が多いので、難しいですね。寄り添って子どもの言うことを繰り返す「オウム返し」から始めてみるのは、大人側の挑戦かもしれませんね。

月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5
	町探検(3年) 放課後学習 聴力検査(欠席者)	聴力検査(再検査)		放課後学習	
7	8	9	10	11	12
朝礼(リモート) 銀行引き落とし日 (1回目)	町探検(3年) 歯科検診(6年) スポーツテスト 放課後学習	スポーツテスト	委員会活動 歯科検診(4年)	代表委員会 放課後学習	
14	15	16	17	18	19
歯科検診(5年)	歯科検診(3年) 放課後学習 銀行引き落とし日 (2回目)		歯科検診(2年)	尿検査(最終) 放課後学習	
21	22	23	24	25	26
歯科検診(1年)	放課後学習	校内研究授業 (くすのぎ学級以外 13:20下校)	クラブ活動 色覚検査(4年)	放課後学習 色覚検査 (4年欠席者)	
28	29	30			
	放課後学習				



6日(火) 校外児童会(25分休み)

15日(木) 給食終了

20日(火) 終業式

いいところ見つけた!(学校生活の中で見つけた子ども達の良いところを紹介します。)



武庫北の子どもたちのいいところは、とっても素直で優しいことです。素直な心は、ぐんぐん成長していくための大きな力になります。優しい心は、学校の温かい雰囲気を作ります。素直で優しい子どもたちと過ごす毎日とっても楽しいです。
6年担任

